
未来人にタバコは売れない

丈徒

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

未来人にタバコは売れない

【Nコード】

N0416Y

【作者名】

丈徒

【あらすじ】

未来人とか言ったりしてたりしてますが、メインはくだらない会話だけです。

少女はいじけていた。だが、理由はとても些細なことであった。友達の家に遊びに行こうとした際、お気に入りの服をお母さんに洗濯していたのだ。

それからお母さんと口喧嘩、小学校から帰ってきたままの服で家を飛び出し、この公園にやって来たのだ。

今日は小学校自体が早帰りだったため、太陽はサンサンと彼女の座るブランコを照らす、冬の快晴であるため日向でもまだ寒いくらいだ。

涙はもう流してない女の子は、お母さんにどう謝ればいいのか分からずに困っているのだ。

その近く、一人の青年が歩いていた。青年は眠そうな顔をしながらも、やけに汚く汚れきってしまい、さらには穴だらけで読めるものすら読めない状況に陥っていた地図を見つめていた。

「ここらにタバコ屋があるはずなんだが、ここはどこだ？」

彼は目の前に公園があることを確認してから地図を覗くが、こちら辺はどうやら公園が密集しており、公園の名前をマーキングしたのか分からないがちょうど色濃くなってしまうって確認しようがない。彼は道行く人が少ない平日の昼間に来てしまったことに後悔したが、ちょうど地元の子供が近くのブランコに座っていることに気付く。

これは好機、と言わんばかりに彼は少女に向かって走り出した。

一方、少女はなにやらこちらに走ってくる大人に目を止まる。

(明らかに怪しい)

ファッションが明らかに古い、もといおじさん臭い感じの彼は彼

女にとって顔見知りの地元では全くみない顔だ。

さらに、ここらの男性は日焼けが多いのだが、こちらに向かってくる男性は明らかな色白だ。

女の子はポケットに入っているボタン式の防犯ブザーに手をつける。

「そののキヤワイイシャイガール！ ちょっといいかな？」

時代遅れというのか、流行知らずというのか、おじいちゃんとい
うのか、そんな青年は人前で言ったら赤面よろしく赤飯顔になるよ
うな台詞を吐きながら彼女に近づく。

彼はそのまま、彼女が警戒していることに気付かぬままブランコ
の回りのガードレールみたいなアレに片足を乗せ、飛び越える。

そして、着地の瞬間にそれは起こった。

「ブーーーーー！！」

少女は防犯ブザー（握るタイプ）を握り締めていた。

さすがの青年も防犯ブザーを知らないわけではなく、アワアワと
どうにかしようとしたのか、来た道に戻っていく。

ある程度はなれたあたりだろう、少女は防犯ブザーから手を放す。
すると、すぐに防犯ブザーは収まった。

「キミー、ちょっといいかなー！！」

20mぐらいだろう、それぐらい離れた青年は大声を上げながら
少女に言葉をかける。

少女は不感を抱いたのか、防犯ブザーを天にかざすがの如く高
々と持ち上げる。

やばい、と彼はさすがに悟ったのだろう。

そして、青年はなにを考えたのがホールドアップ、つまりお手上
げ侍。

怪しい人じゃないのかな、と少女は防犯ブザーから手を放す。

「なんですかー!」

少女は青年に負けなくらいの大声をあげる。

しかし、まだ両手を挙げたままの彼の片手には地図が握られている。

そこで、少女はポケットに防犯ブザーをしまい、なぜか両手をあげる。

(抵抗しないってことかな?)

少年は安心感を得られたんだとホールドアップを考えた先人に心のそこから感謝をすると、息を吸い込む。

「ここら辺にコンビー、二つてないかなー!」

我ながら区切り場所が悪いと青年は思ったことだろう。

そして、目の前(正確には1m定規が20個分の距離)の少女の顔がおバカクイズ大会よろしく「ワツザツ?」と言っている。

(コンビー、二つてないかなー?)

コンビー、少女にはあまり馴染みの少ない単語だろう。

もう少し大人であれば缶詰のアレやらを連想しただろうが、少女にはまだ人生経験というものが薄い。

そして、己の知りえる人生経験から少女は答えを搾り出す。

「コンビーは煮込んでないですよー!」

あまりの返しに、青年は言葉に詰まった。

(ここここ、コンビー!? コンビーってなんだよ、この時代ってそんなもん置いてあんの!)

聞き返してくれたら嬉しかったなー、と青年は心で呟いた、ような顔をする。

少女には悪いが、と青年はまた声を張り上げる。

「コンビニってー、ないかなー!」

少女は熱された鉄の如く顔を真っ赤にした。
聴き間違えた上、酷く恥ずかかった上、大声を張り上げてしま
ったせいだ。

少女は汚名挽回、と言わんばかりに脳内GPSにアクセス、つま
り記憶から思い出す。

と、一番近いコンビニを思い出した。

「あなたのー、右手のー、方にー、あーりーまーすー！」

「コンビニって、これがよ！」

青年は目を丸くする。

ガラス張りの入り口、駐車場の数、何もかもが新鮮な感じだ。
だがとりあえず、と青年は少女に向き直る。

「ありがとねー！ シャイガール！」

(あんだけ勇氣あれば、お母さんにも謝れるかな?)

少女はそう思いながら、コンビニへと向かっていく背中を見つめ
る。

(うん、頑張って謝ろう！ だけど、)

と、少女はその場で軽くペコリとすると、小声で小さく呟いた。

「こちらこそ、ありがとございました」

「すみません、あの58番?のタバコくださいー」

「こちらの商品ですね? 先に年齢確認してもよろしいでしょうか
?」

「ん、はいはい、ちょいちょい待っててくださいねー。っと、これ
でいいかな」

「はい、ありがとございますと、すみませんがお客様は17歳
ですのお売りできません」

「……え?」

(後書き)

これを30分で書き下ろして力尽きたい気分ですが、これから2
作書かないと間に合わないぜ。

恨むぞ、12〜5時のバイトめ！(現在、30日、深夜1時半)

ちなみに、本文は5行で主体が入れ替わる縛りです。
分かりづらいかなー？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0416y/>

未来人にタバコは売れない

2011年10月31日08時15分発行